

面接体験報告

以下に就職面接を受けた者の実体験の内容を示す。

- ・ここに示す質問に答えられるようにしておくこと。
- ・練習は、実際に声を出し、人に聞いてもらうこと。
- ・就職に失敗する人は、結局、面接がうまくできない人である。
- ・自己を分析して、面接での欠点を克服すること。

=====

1. 面接体験報告（1）

< 1 次面接 >

- ・面接は 1 対 2 の個人面接
- ・最初に大学名、氏名、自己 P R、志望動機を言う。
- ・以降はエントリーシートの内容について質問される。
 - （1）研究について
 - （2）研究はどんな言語でプログラム作成をやっているのか？
 - （3）チームで何かプログラムを作ったことはあるか？
 - （4）他の言語経験は？
 - （5）T Aではプログラムを教えているのか？
 - （6）入社したらすぐに開発できる？
 - （7）他の企業の選考状況は？
 - （8）当社の志望順位は？
 - （9）研究室ではどのような立場か
 - （10）入社したらセキュリティの仕事がやりたいということでもいいの？
 - （11）趣味について
 - （12）友達と遊ぶ時はどのような立場か
 - （13）なにか質問は？

備考

- ・研究（自分の持っている技術）、グループでの作業経験、グループ内での立場などが重要となる気がしました。また圧迫面接ではなく、話しやすい雰囲気でした。
- ・面接時間は 20 分くらいでした。

< 2次面接 >

- (1) 志望動機、
- (2) やりたい業務は？
- (3) キャリアプランを述べよ。

備考

- ・ 1次面接とは違い、研究についてはほとんど聞かれなかった。自分のやりたい仕事をはっきりとさせておいた方が良いと思われる。
- ・ 面接時間は15～20分くらい。圧迫面接ではないと思う。

< 最終面接 >

- (1) 面接は1対3の個人面接
- (2) 最初に大学名、氏名、自己PR、志望動機、やりたい仕事の順に言う。
- (3) 以降はエントリーシートの内容から聞かれる。
- (4) 君はパッケージ製品の仕事がしたいの？
- (5) 趣味について
- (6) 得意科目に記入したプログラミングについても聞かれた。
- (7) 家でもプログラムをやったりするのか？
- (8) 他の企業の選考状況
- (9) エントリーシートが手書きだけど、なぜ？
- (11) 大学について
- (12) 何か質問は？

私の場合は、学生生活で学んだことよりも、内面的なことを深く聞かれた。

2次面接のよりは最終面接で技術的なことを深く聞かれたと感じた。

自分の持っているスキルや興味のある技術が、その企業とどうマッチしているのかをしっかりと考えておく必要がある。また、興味のある技術の最近の動向なども把握しておかないと聞かれたときに答えられないのでしっかりと覚えていくとよい。

< 選考を終えて >

- ・ 最終面接では技術のことはほとんど聞かれないので、自分に技術があることを1次面接でアピールできないと大変かも。
- ・ 早め早めの準備をしておいたほうが良い。特にWebテストや自己PR、志望動機等。
- ・ 一度エントリーシートを出したら、何時選考が始まっても後悔しないよう覚悟を決めてエントリーシ

ートを提出したほうがよい。

- ・なぜ日立なのか、というところをしっかりと考えておくこと。
- ・先生や友達と面接練習はやった方がよい。私は友達と 10 回（またはそれ以上）は練習した。繰り返しやることで志望動機や自己PRも自然に覚えます。

=====

2. 面接体験報告（2）

<面接内容>

（面接では、ネガティブな答えは言わないように）

- （1）自己紹介
- （2）自己PR：経験を通して何を学んだか、何ができるようになったか？
- （3）志望動機（なぜ日立やNECではないのか）
- （4）会社でどのような業務を行いたいのか？
- （5）卒業研究について（研究目的、研究結果の評価方法など）
- （6）体力に自信はあるのかどうか。
- （7）他にどの企業を受けているのか？
- （8）ストレスの発散法は？

2次面接

- （1）志望動機
- （2）やりたい業務
- （3）キャリアプラン

私の場合は、学生生活で学んだことよりも、内面的なことを深く聞かれた。

2次面接のよりは最終面接で技術的なことを深く聞かれたと感じた。

<面接準備>

- ・必ず、面接練習を行う（先生方や、先輩方、友達同士）
やっている人は、全然違う。
- ・友達同士でお互いのいいところや、悪いところを指摘する
面接の質問で「他人にどう思われているか？」など聞かれることがある。
自分では思ったことのない長所、短所を知ることができる。

- ・自分の行きたい業界を絞ることができたら、業界にどんな企業があるか調べて、他の企業との違いを知る。
- ・自分の持っているスキルや興味のある技術が、その企業とどうマッチしているのかをしっかりと考えておく必要がある。また、興味のある技術の最近の動向なども把握しておかないと聞かれたときに答えられないのでしっかりと覚えていくとよい。

=====

3. 面接体験報告（3）

<面接内容>

- （1）志望動機
- （2）コミュニケーションに必要なことは何か？
- （3）情報など専門の授業を勉強していく上で何が支えになったか？
- （4）世代が異なる人が多いかやっていけるか？
- （5）作物は何を作っているか？（農協関連会社のため）
- （6）当社を受けるにあたって親は何と言っていたか？
- （7）JAをどのように利用しているか(電算センターを知っていたか)？
- （8）成績証明書を見て幾つか質問される(自分の場合ドイツ語を受けた理由など)。
- （9）最後に1分間時間を与えられ、自己PRができる。

備考

私の場合、1次面接は面接でよく聞かれるような一般的な質問のみであった。
2次面接では、統括技師長であったからか、研究に関してかなり深い質問だった。
最終面接では、おそらく人事の方だったので、体力に自信があるかどうかや、ストレス発散にはどうやっているのか、といった一般的な質問が多かった。

<グループディスカッション>

テーマが3つ出題され、その中の一つを選んで人事の方に発表する

出されたテーマは、

- ・「理想的なリーダーってどんな人？」
- ・「IT業界の今後の進む道」
- ・「あると便利だと思う機械」。

テーマは他にもいくつか種類があるようなので情報収集を怠らないこと。

<対策>

- ・面接は志望動機と自己PR、長所と短所は最低限言えるようにしておく。
- ・練習はたくさんやっておいたほうが精神的にも余裕ができるし、アドバイスをもらえるので友達や先生に頼んで相手をしてもらう。
- ・就職活動はどうなるか分からないので興味を持った企業はエントリーをし、説明会にも積極的に参加

する。

<アドバイス>

- (1) リクナビ、マイナビ、日経就職ナビ、みんなの就職活動日記の4つは最低でも登録しておくこと。
- (2) 就職情報サイトはそれぞれ掲載されている企業のタイプが異なるので複数に登録しても無駄にはならない。
- (3) 興味のある企業、選考を受けている企業は、みんなの就職活動日記を見て情報収集を怠らない。聞かれた質問や試験の内容などを書き込んでくれている人がいるので役に立つ。
- (4) 就活と言われても何をしたいのかわからないという人は日経就職ナビの就活対策という項目を熟読すること。マナーなどについても書かれている。
- (5) エントリーはたくさんすること。時間が経つとエントリーを締め切る企業があるので、手札がなくなると非常に焦る。
- (6) 就職活動は、自分とはどういう人間かを知ることができるいい機会です。しっかり自己分析をやる(友達同士でやるといいかも)。

=====

4. よく聞かれる質問の例

- (1) 志望動機は？
- (2) 自己PR(長所・短所)
- (3) 学生時代にがんばったこと(勉強以外、勉強)
- (4) 部活はやりましたか？
- (5) 卒業研究は？それはどんなことに役立つのか？
- (6) 資格は持っているか？
(情報系資格試験を受けておくこと。「受けたことはない」でなく「受けたが失敗した。また挑戦します」と言える)
- (7) 趣味は？
- (8) SEって、どんな仕事だと思う？(SEとプログラマーはどう違うか調べておくこと)

- (9) 入社後10年でどのようになりたいか(キャリアプラン)。
- (10) 得意科目、にがての科目は？
- (11) プログラミングの経験は？
- (12) 使えるプログラミング言語は？
- (13) OSは、どのようなものを経験したか？
- (14) ネットワークの経験は？
- (15) 最近読んだ本 (一般、情報関係)
- (16) 最近のニュースで印象にあるもの(人によって見解の分かれるもの、暗いニュースは避けること)
- (17) 研究室はどんな研究室か？

=====

入社試験での面接では、多岐にわたる質問が用意されています。これに対処するには、「勉学、向上心、他者との関わり合い、社会や世の中の知識」などの日常生活を充実させることが必要です。ただ「日々目の前のことを楽に乗り切れば良い」式の心構えでは、希望を成就することは困難です。